

## 19 世紀前半における和声理論と自然科学の関わり

——ジェローム＝ジョゼフ・ド・モミニとフランソワ＝ジョゼフ・フェティスの理論を中心に——

大迫 知佳子

ジェローム＝ジョゼフ・ド・モミニ (1762～1842) とフランソワ＝ジョゼフ・フェティス (1784～1871) は、19世紀に生きた現ベルギー出身の音楽理論家である。2人の和声理論の関係に言及した先行研究は、主としてモミニ理論における調性概念の拡大がフェティス理論へ与えた影響、つまり2理論の類似関係に注目してきた。しかし理論の基礎的な部分に目を向けると、当事者フェティスのモミニ評には、自然科学に依拠したモミニ理論とは異なる基礎上に独自の理論を展開しようとする彼の自負が窺える。従って、フェティスの意図に立ち戻ってこれらの理論の関係を検討する余地が残されている。

本稿は、モミニとフェティスの和声理論の関係を彼らの理論・思想と自然科学の関わりという観点から再考するものであり、この考察によって19世紀前半から現代へのフランス語圏における音楽理論変容過程の新たな一側面を提示することを目指す。そのため本稿では、1)両者が著した諸和声理論書の詳細な分析と比較、2)同時代に生きた理論家達の双方の理論への批評の整理、という2つを通して考察を行う。

モミニは、自然科学的な根拠に基づく普遍的な理論を提唱した。一方フェティスは自然科学的な根拠を否定し、理論は時代・民族・文化ごとに異なる原理に拠ると考えて自身の理論を確立している。

彼らの理論の諸関係性には、和声理論の基礎に対する新たな視点が加わってゆくある種の転換期の存在が窺えるのである。